

はじめに

犬は、従順でかわいく、非常に癒やされます。

人は犬と触れ合うことで心が癒やされ、ストレスが軽減されて元気が出てきます。

そして行動範囲も拡がり健康につながったなど、犬を飼うことのメリットは多くあります。この癒やし効果が得られるのが、“アニマルセラピー”です。

しかし、犬と人のよい関係なしでは、犬の長所を見つけ出してあげることはできません。

人には幼稚園から始まる教育があるように、犬にも幼い時期から教育（しつけ）が必要です。

犬に「しつけ」（教育）をおこなうことは、犬をお迎えされた飼い主の責任でもあります。

「しつけ」をしっかりと受けた犬は、ストレスを感じる事が少なく、人間社会の中で穏やかに過ごすことができます。

犬は親犬から受け継いだ性格よりも、育てられる環境や飼い主の接し方により、性格が大きく左右されます。

犬に餌を毎日あげてかわいがれば確かに人に懐きますが、これでは野生のキツネやタヌキなどに“餌付け”をおこなっていることと同じです。

“餌付け”では、犬の高い潜在能力を引き出してあげることができません。

犬をお迎えされました飼い主は、言葉を話せない犬の本能と習性をよく理解して、病気を予防する“正しい飼い方”と、家族のよき一員となる“正しいしつけ方”に努めることが大切です。

本書は、すでに犬と暮らしている方で「うちの子は、しつけはもう遅いからダメ！」とお嘆きになっている方や、これから犬を迎えようとしている方で「正しい飼い方をしたい！」と思っている方に読んでいただき“ご家族のよきパートナー”となるようにお役に立てれば幸いと考えております。